

19. 右室内電極高頻度刺激にて心室中隔部にタリウム欠損像を呈した正常冠動脈像を有する5例について

松村 和彦 尾崎 正治 伊達 敏明  
森谷 浩四郎 小川 宏 松田 泰雄  
楠川 禮造 (山口大・二内)

右室ペーシング高頻度刺激にて中隔部のTl欠損像を呈することが最近報告されている。そのメカニズムについては不明な点が多く、asynchronyに伴う心筋内血流分布の変化が原因であろうとされている。われわれは正常冠動脈を有する5例において、右室ペーシングによる150/分の高頻度刺激を5分間行い心室中隔部欠損像を認めた。この際、全例に心電図上ST低下がみられたが胸痛は5例とも出現しなかった。1例についてはペーシング中の冠動脈造影とペーシング終了直後の左室造影を行ったが異常は認めなかった。

20. 心疾患症例における<sup>201</sup>Tlの肺集積の検討

謝花 正信 井隼 孝二 遠藤 健一  
勝部 吉雄 (鳥取大・放)

<sup>201</sup>Tl心筋シンチグラフィーにおける肺集積を心臓カテーテル検査および心プールのデータとの関係について、過去2年間、59例について多変量解析を用いて検討した。

肺集積は、LVEDP, LVEF, RIによるLVEFなど左心系のパラメーターよりむしろ、PA, PCWなど肺高血圧を示すパラメーターと相関をもつことが示唆された。

21. Immotile cilia syndrome の吸入シンチグラフィー

沢田 章宏 吉田 祥二 西岡 正俊  
森田 荘二郎 前田 知穂 (高知医大・放)  
赤木 直樹 森田 賢 小川 恭弘  
(同・放部)

Immotile cilia syndrome の症例に対しTc-99m HSAエアロゾル吸入シンチグラフィーを施行し、気道粘液線毛輸送系の機能低下を検索した。そして、本症の特徴である咳嗽のみによってわずかにクリアランスが亢進するという現象が把握でき、また、井沢らの方法に準拠して

気道沈着率を算出し、その経時的变化が小さいことが確認できた。

22. <sup>99m</sup>Tc-DTPA アンギオによる移植後の腎機能解析

平尾 弘之 (済生会下関総合病院・RI診療部)

この方法は、アンギオに引きつづきレノグラムを行い、その相方のDATAを利用することにより、濾過率および血流量を算出するものである。(1)式および(2)式から、非線形最小2乗法を用いて各パラメータを決定した。

(1) アンギオ

$$K(T) = \int_0^T A(T) - \int_0^T \exp(-F/V) (T-t) \cdot (A(t) \cdot (1-P)) dt$$

(2) レノグラム

$$K(T) = A(T) + \int_0^T (A(T) \cdot P) dt$$

A: 脳動脈 count t: 遅れ時間

K: 腎 count T: 時間

F: 血流量 V: 血管床面積

P: 濾過率

従来法に比し、より直接的に血流量が得られる。また濾過量でなく率が得られる点で動能把握にすぐれる。今後非移植腎への適用も考えたい。

23. 当院におけるガリウムシンチの現状と反省

日野 一郎 濑尾 裕之 川瀬 良郎  
佐藤 功 児島 完治 高島 均  
大川 元臣 玉井 豊理 田辺 正忠  
(香川医大・放)  
水川帰一郎 (住友別子病院・放)

当院において、1983年11月から1984年3月までに、他科からの依頼により98症例に<sup>67</sup>Gaシンチが行われている。その中には、適応とは考え難い症例も多く、明確な目的を欠いたものや、念のためにと行われた検査も多く含まれている。その適応の是非を画一的に言うことは問題の多いところと思われるが、われわれは、今回、久田の言う適応に従って検討してみた。

適応に含まれた疾患は60症例(61%)、含まれなかつたものは38例(39%)であった。非適応例が多かったのは、他科の一部医師の中に、<sup>67</sup>Gaシンチの特性や適応を十分理解していないためではないかと思われる。<sup>67</sup>Ga